

本県児童生徒の学力の現状と課題
「H20全国学力・学習状況調査 - 分析・考察 - 」のまとめ

< 教科に関する調査の結果 >



県の平均正答率は、小中学校の国語、算数・数学ともに全国平均を上回り、A（知識）の方がB（活用）よりも高い。

[平均正答率] (%)

学年	県・国	国 語		算数・数学	
		A	B	A	B
小学校	本県	67.6	55.2	74.7	54.8
第6学年	全国	65.4	50.5	72.2	51.6
中学校	本県	76.0	64.2	66.4	53.1
第3学年	全国	73.6	60.8	63.1	49.2

(A : 主として「知識」に関する問題
B : 主として「活用」に関する問題)

到達状況

小学校

- 国語A**
: 漢字を正しく読んだり書いたりすること
: 文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲すること
- 国語B**
: 資料から必要な情報を取り出し、自分の考えを書いたり、条件に合わせて書き換えたりすること
: 物語の登場人物の特徴や心情、場面の様子をとらえること
- 算数A**
: 基本的な四則計算
円グラフを読むこと
: 面積について量感を伴って理解すること
百分率の意味について理解すること
- 算数B**
: グラフから情報を読み取ること
: 言葉や数、式を用いて、考えや理由を記述すること

中学校

- 国語A**
: 漢字を正しく読んだり書いたりすること
: 論理の展開に着目し、評価・批評すること
- 国語B**
: 資料から必要な情報を取り出し、根拠を明確にして自分の考えを書くこと
: 読み取った内容を、条件に合わせてまとめること
- 数学A**
: 基本的な四則計算
平行線の性質を理解すること
: 反比例や一次関数の関係を、グラフや表から式に表すこと
- 数学B**
: 数学的な表現を用いて、問題解決の方法や根拠を説明すること
: 合同を利用して証明すること

(: 良好、 : 課題)

< 質問紙調査の結果 >

「児童生徒質問紙調査」より

【学習・生活状況と正答率との関係】

正答率が高い児童生徒に見られる傾向

- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている
- ・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える
- ・算数・数学の授業で、公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている
- ・家で学校の宿題をしている
- ・テストで間違えたところを後で勉強している
- ・読書は好きだ
- ・新聞やテレビのニュースなどに興味がある
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある
- ・学校のきまりを守っている
- ・朝食を毎日食べている
- ・携帯電話を持っていない

正答率が低い児童生徒に見られる傾向

- ・テレビゲームを普段2時間以上している

【学習状況の経年比較】

- ・普段、家庭学習を1時間以上している児童生徒は年々増加し、小中学校とも50%を超えている。しかし、中3では、全くしていない、または30分より少ない生徒は、約20%である。

「学校質問紙調査」より

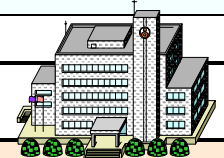
【学校の状況と平均正答率との関係】

平均正答率が高い小中学校に見られる傾向

- 小中学校
- ・国語の授業で、目的や相手に応じて話したり聞いたりする指導を行った
 - ・算数・数学の授業で、発展的な学習の指導を行った
 - ・児童生徒は、熱意をもって勉強している
 - ・児童生徒は、授業中の私語が少なく落ち着いている
 - ・児童生徒は、礼儀正しい
 - ・PTAや地域の人々が、学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる

- 小学校
- ・国語の授業で、様々な文章を読む習慣を付ける指導を行った
 - ・児童に、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした
 - ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った

- 中学校
- ・国語の授業で、書く習慣を付ける指導を行った
 - ・学習方法に関する指導をしている（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）
 - ・国語、数学の指導として、授業と関連させて家庭学習の課題を与えた



今後の指導の重点

1 学校での指導

「活用力」を高める指導の充実

- 「読むこと」「書くこと」などの言語活動の充実
国語だけではなく、他の教科等においても、「読むこと」「書くこと」を中心とした言語活動を充実させて、「活用力」を高める。
- 算数・数学の知識及び技能の活用を図る学習活動の充実
算数・数学の授業において、発展的な学習を取り入れるなど、知識及び技能の活用を図る学習活動を充実させて、「活用力」を高める。

学習への関心・意欲を高めるための指導の工夫改善

- 学習課題の設定や授業展開など、指導の工夫改善を行い、児童生徒の学習への関心・意欲を高める。

自尊意識・規範意識を高める指導の充実

- 児童生徒に達成感を味わわせ、自己肯定感を育成する指導を充実させるとともに、学校全体で学習規律の指導の徹底を図る。

2 家庭との連携

家庭における学習習慣の充実

- 家庭学習の課題を工夫するなど、その内容を充実させ、保護者とも連携して家庭学習の習慣化を図る。

家庭における生活習慣の改善

- 家庭や地域と連携して、「早寝 早起き 朝ごはん」の促進をはじめ、テレビゲームやテレビ、ビデオ、DVD、携帯電話の適切な使用など、望ましい生活習慣の定着を図る。

家庭、地域との連携の強化

- 保護者や地域の人材を活用するなど、家庭や地域との連携を密にした取組を積極的に推進する。